

「脱ムダ」で市政を変える！ 市政改革を前へ、前へ
小金井市議会議員／情報公開こがねい

週刊 渡辺大三 NEWS



【会派 NEWS】 2021(令和3)年1月25日 週刊 vol.74

【ご意見ご要望はお気軽に】 〒184-0012 小金井市中町3-26-15-301

T 090-3345-6929 F 042-381-5074 watanabedaizou@gmail.com

公式サイト daizou.org (Twitter、facebookには公式サイトからアクセスできます)

今任期最後の定例議会始まる

会期は1/22~3/5 市議選は3/14 告示3/21 投票

現在の市議会の任期(4年間)は今年4月4日までですが、任期中最後の定例議会となる令和3年第1回定例会が、1月22日から始まりました。会期は3月5日までとなります。

市議会議員選挙は3月14日告示21日投票の予定で行われます。

定例議会への対応と立候補準備が重なるため、加速度的に忙しくなっていますが、「週刊渡辺大三 NEWS」や「情報公開こがねい NEWS」の発行で、市政情報の公開はこれまで同様きちんと行いたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

小学校6年生にまで対象を拡大

今年10月から 医療費助成に関する所得制限撤廃

今定例議会に、西岡市長から、「今年10月から義務教育就学児の医療費助成の所得制限撤廃を小学4年生から小学6年生にまで拡大する」との条例案が提出されました。現在は小学1年生から3年生までが撤廃されています。

この件、重要なので経緯を振り返ってみます。

東京23区では、子育て支援の一環として所得制限の撤廃は「標準的措置」となっており、多摩地域でも撤廃を行う自治体が増えていました。しかし、西岡市長が何らの動きも見せないため、「情報公開こがねい」「公明党」「共産党」の3会派が「義務教育就学児の医療費助成の所得制限を小学1年生から小学3年生までについて撤廃する」との条例案を共同提出しました。

市議会は、平成30(2018)年12月定例議会において、議員提出条例案を賛成16 反対6 退席1で可決しました。条例は、令和元(2019)年10月から実施され、まず小学校1年生から3年生について医療費助成の所得制限撤廃が

実現しました。提案会派の一人として、子育て世代の負担軽減が実現でき、大変うれしかったです。

ちなみに、その際の各会派各議員の採決態度は以下の通りでした。

○賛成→情報公開こがねい(渡辺大三)自民党信頼(遠藤・湯沢・吹春・河野)公明党(宮下・紀・渡辺ふき子・小林)共産党(森戸・板倉・水上・たゆ)市民会議(齊藤)市民カエル(片山)こがあす(沖浦)。

×反対→みらい(鈴木・村山・岸田)こがおも(白井)緑つながる(坂井)ネット(田頭)。

△退席→改革連合(篠原)。

※五十嵐議長(自民党信頼)は可否同数の場合以外は採決に加わらない。

議員提出条例案の可決という事態を受け、西岡市長は姿勢を改め、今般、小学校4年生から

6年生までについても撤廃という流れになりました。

市議会が議案提案権を行使し、それが市長や行政を動かした事例と言えらると思います。

「でどころ」差別は良くない

注目されるのは、当時、議員提出議案に反対した会派の皆さんが、今回どう対応するかです。

議員提出議案には反対で、今回、市長が提出したら一転、賛成では、辻褄が合いません。

政策は内容本位で可否を判断すべきであり、「でどころ(提出者)」で差別的対応をするのはいかなものかと思ひます。私は「でどころ(提出者)」では差別しないことを、議員活動上、心掛けています。

中学生、高校生にも拡大を

私も「情報公開こがねい」は、子育て世代の負担軽減をさらに進めるため、医療費助成の所得制限撤廃をさらに段階的に拡大し、中学生、高校生までを対象に含めていくべきだと考えております。

新型コロナの影響で厳しい財政状態ではありますが、市役所や市議会のムダ遣いをなくして財源を生み出し、さまざまな市民サービスの充実に使っていきたいと思ひます。

「建設コスト大幅削減を」

庁舎建設で市民団体が陳情書

1月21日、市民団体「庁舎と福祉会館の建設を考える会」は、297人の署名を添えて「庁舎及び福祉会館の建設に関して、抜本的見直しを求める陳情書」を市議会に提出しました。陳情書は、2月18日の特別委員会で審査されます。

陳情書の内容は、①新型コロナウイルス感染症が市民生活に及ぼしている影響や、今後5年間で61億5000万円も減収となることを考慮し、建設コストを大幅に削減すること、②市民要望が多い「広場」を陽当たりの良い建物南側に約3000㎡程度確保すること、③高齢者・障がい者・乳幼児などが利用する福祉会館は、庁舎と同じく「免震構造」を採用すること、④以上実現のため、現状の基本設計や実施設計について抜本的に見直すこと。

いずれも、同市民団体が専門家と一緒に策定した「市民案」に沿ったものです。

私は陳情書が採択されるよう、議会での論戦に全力を尽くします。

渡辺大三の独り言(日々の雑感) vol.2



西岡市長のコスト意識の無さは、いつも具体例を挙げてお知らせしているとおりです。

以前、西岡市長が、第二庁舎(賃借庁舎)の各フロアの長椅子を買い替えるという議案を唐突に議会に提出。汚れたから、が主たる理由です。汚れたら、買い替えるより、まずは汚れを落とすことを考えるのが普通の市民感覚です(市長宅は汚れたらすぐ買い替えるんですかね?)。

私は、委員長と担当職員に声をかけ、寒空の下でしたが、市内企業から借りた高圧洗浄機でその長椅子の洗浄実験をしてみました(写真)。

気持ち良さを感じるくらい、「あっ」と言う間に汚れは落ちました。私が「実証実験」で買い替えが不要なことを立証しましたので、役人に言われるままに買い替え議案を提出した西岡市長も、さすがに買い替えを断念しました。

こんな市長が行う庁舎建設ですから、「コストダウンに努めた」などと言っても、誰も信用しません。すでに設計段階で10億円を超える莫大なムダ遣いが生じることが明らかになっています。あらゆる方策で大幅コストダウンを実現したいと思ひます。

◆渡辺大三略歴◆

【小金井育ち】1966年5月2日、岩手県水沢市(現:奥州市)生まれ。秋田県横手市、宮城県仙台市、山形県山形市を経て、9歳から小金井市在住。小金井市立本町小学校・小金井市立小金井第一中学校(桜町)、東京都立小金井北高等学校(緑町)、中央大学法学部を卒業。株式会社河北新報社(本社:仙台市)に就職し、新聞記者。衆議院議員秘書を経て、男性最年少の26歳で小金井市議選初当選(以降7期連続当選/最近4回の選挙はいずれも無所属で立候補)。

【現在】小金井市の地域政党「情報公開こがねい」共同代表。東京の地域政党「自由を守る会」幹事長。小金井市商工会参与。貫井北町商工振興会事務局長。中町親愛会相談役。中央大学学員会小金井支部副支部長。小金井北高等学校同窓会幹事長。

